

平成 24 年度地域懇談会 「検討課題」に係る町の対応

1 バス事業の民営化

バス事業においても民間の力を活用した運営を考えていくべきではないかと思いますが、どのようにお考えですか。

主なご意見	町の対応
民営化で効率的な運営を ・ 町費削減のため住民主体の運営が望ましい。人件費の削減になる。 ・ 民間のノウハウを利用し、町は補助していく体制がよい。 ・ 民営化の方が効率的な運営ができる可能性が高い。バス事業者によるコンペ制の導入を。 ・ 少しずつ資金を出し合って、運行会社をつくってはどうか。 ・ 柔軟な発想が生まれて事業の幅が広がるのでは。 ・ 企業との連携を拡大する。 ・ 企業の送迎バスを日中の住民用に委託できないか。	町の「立ち位置」を明確にして、長期的展望で民営化を考えたい 民営化については、民間の持つ経営的手法に期待するご意見が多くありました。その一方で、民営化によって不採算路線の統合・廃止を心配する声もありました。「コミュニティバスの目的は福祉か、事業か」「誰のために何の目的で走らせているか」といったご意見がありましたが、民営化の是非を問う前に、コミュニティバスの事業コンセプトを明確にしてから議論を進めるべきだったと反省しています。 大口町のコミュニティバスのコンセプトは、公共交通機関のなかった大口町内で、住民の移動手段、鉄道駅への接続手段として事業を開始しました。昼間にバスを利用される方は交通手段を持たない高齢者が多いことから、狭義の意味での「福祉目的」の運行に取られがちですが、広く住民の足として利用していただける交通機関を目指して実施しており、このことについては今後も継続するつもりでいます。
民営化は慎重に ・ 方向性は理解できるが課題も多い。 ・ 町だから運営できている部分が多い。現状ではまだ早い。 ・ 民間のノウハウは活用すべきだが、「交通弱者への足の提供」の目的を失わないように。 ・ 民間委託は限定的に考えた方がいい。	民営化については、好意的な意見の方が多かったように思いますので、民間の力を借りるという方向性で事業を進めていきたいと考えます。しかし、町がバス事業の運営・運行に「どこまでかわかっていくか」によって事業形態が変わってくると考えますので、その辺りの町の「立ち位置」を明確にしていく中で、長期的ではありますが、民間の力を最大限活用していける方法を模索したいと思います。

2 乗客増のための方策

バスの乗客を増やすための方法として、あなたが考える「アイデア」「改善点」をお聞かせください。

主なご意見	町の対応
割引制度の創設 ・大型店と提携するなどして、運賃の割引、スタンプ制の導入、サービス券等の発行等を考える。 ・バスポート券の販売を。	企画を練って大型店に提案も コミュニティバスは1乗車100円という低料金のうえ、回数券(11枚綴りで1,000円)・1日乗車券(同2,000円)という割引で運行しています。「料金が低い」＝「バスに乗らない」という相関関係が明確であれば割引制度を考えたいと思いますが、そうではないと思いますので、新たな割引制度の創設は見合わせたいと考えています。 ただ、大型店と提携するアイデアについては大変興味深い内容ですので、コミュニティバスサポート隊と一緒に企画を練る中で、大型店へ提案できればと思います。
路線・便数・バス停等のハード面の改善を ・増便と周回路線の増設。 ・町外にもルートの拡大。 ・フリー乗降、またはバス停の間隔を狭くする。 ・桜の時期や各種行事に合わせて臨時便の増発。 ・拠点駅との利便性を高めるなど、既存交通の有効活用。 ・バス停位置の再考を。 ・役場を発着のターミナルにし、役場駐車場でパーク・アンド・ライド方式を。	増車は困難。バス停の増設等は考えたい 11月に行われる「ふれあいまつり」では、役場と健康文化センターを結ぶシャトルバスを運行させています(1日当たり税別で5万円)。参考までに、バスを1台増車すると、人件費を含め年間1,300万円かかると試算されています。車両を増やすことは財政的にも大変厳しいことですので、現在のところ増車は考えていません。 また、フリー乗降やバス停の間隔を狭くすることで、ルート上の多くの方が利用しやすくなると思いますが、乗降場所が増えることで、バス停への定時発着が困難になりにくくなると思いますし、たびたび停車することで、他の交通流の妨げとなることも考えられます。よって、フリー乗降は考えていません。 バス停の増設については、地域の方の声をお聞きしながら、住居が集中する地区で、かつ日中便を対象に実施が可能かどうかを検討してみたいと思います。
広く利用者の声を ・利用者を中心としたアンケートや区単位の懇談会の実施。 ・利用状況を把握して対処を。	機会を捉えてアンケート等を実施 多くの方のご意見を参考にすることは大切なことだと考えています。昨年のふれあいまつりではコミュニティバスサポート隊が中心となってアンケートを実施していま

・バス利用の対象者を子どもや母親にも広げて考える。	すが、別の機会も捉えながら、広く意見を集約していきたいと思います。
デマンド交通の導入 ・デマンド(予約制乗り合い)交通の実施。	近隣市の実証実験を検証したい 公共交通の課題解消をデマンド交通に求める自治体も多くありますが、必ずしも成功事例ばかりではありません。デマンド交通を導入したがためにかえって使いにくいものになったり、経費がかさんでしまったりしたケースも報告されています。 幸い、近隣市でデマンド交通の実証実験を計画しているところがありますので、その効果等を検証させていただいた後に、大口町の公共交通はどうあるべきかを考えたいと思います。
バスを意識した考えを ・行事等の時間に合わせたダイヤの設定で利用者増を。 ・住民も町も意識改革が必要。 ・ノーカーデーでバス利用を。	イベント等にバスの時刻表を掲載します 各自が移動できる手段(自動車)を持ち、また駐車できる状況が整っている状況では、いくらバス事業を支えるためだと訴えかけても、車からバスに乗り換えていただくのは難しいと思います。しかし、乗れる環境がないことには始まりません。バスという選択肢を増やしてもらうため、イベントや行事等のチラシ等にはバスの時刻表を掲載するよう今後も努めていきます。
「人を運ぶこと」以外の価値感も見出しては ・音楽を鳴らして走行。 ・乗って楽しいバスに(デコレーション、車内ギャラリーなど)。	「親しみやすさ」を取り入れたい ボランティアとして活動しているコミュニティバスサポート隊の皆さんと連携しながら、安全な乗り物としての運行は第一義としながらも、親しみやすさも取り入れたバスにしていきたいと思います。

3 地域できること

バス事業を継続していくために、地域でできることはありませんか。

主なご意見	町の対応
バス停の管理 ・バス停にベンチの設置。 ・バス停の清掃活動。	行政からもお願いします 質問が抽象的だったにもかかわらず、皆さんにいろいろ考えていただきました。 「地域自治組織が主体となって」というご意見がありましたが、このバス事業においても、「公共でなくてもできること」はいっぱいあると思います。 「こんなことならできるよ」、そうしたお申し出をありがたくお受けしたいと考えています。 コミュニティバスが今より快適で便利になるように、皆さんと一緒に考えていければと思っています。
バスの活用方法を周知 ・地域における「活用手引き」の作成。 ・イベント等への参加についてバスの活用を知らせる。	
住民ニーズの把握 ・バスを利用したい人のニーズを把握。 ・区でアンケートを実施。意見を集約して町へ提案。	
乗降客の支援 ・ボランティアとしてバスに乗り、高齢者・障害者等の手助けをする。	
会員になってバス事業を財政的に支援 ・1口500円で「町民が支えるコミュニティバス会員」を募集。会員は多少の割引特典あり。	検討してみます 住民の方から、バス事業を財政的に支えるために会員を募集するというアイデアをいただきました。大変ありがたいことだと思っています。 制度の構築については、前向きに検討してみたいと思います。

4 江南厚生病院へのバス運行

江南厚生病院までバスを走らせることについて、どのようにお考えですか。

主なご意見	町の対応
前向きに運行を ・将来的に高齢社会には必要。 ・運行すべき。金額は100円でなくてもいい。 ・他市町との連携で共同運行へ。 ・なるべく早く、現行路線を柏森駅から江南厚生病院まで延伸する。 ・乗り換えなしの直行便を。 ・せめて1回の乗り継ぎで行けるように。	事業コンセプトは転換せず、他市町との連携を模索します 江南厚生病院までバスを運行させるとなると、それと引き換えに、町内移動のバスの本数を少なくするか、現行4台の車両を5台に増車するかを選択しなければなりません。本数を少なくすれば乗りにくくなって乗客は減るでしょうし、増車すればそれに係る費用が増加してしまいます。 超高齢化社会への進展に伴い、介護・医療等の社会保障費が増大することは明らかです。時代は「あれもこれも」から「あれかこれか」に、さらに進んで「あれをやめて、これに」に移っています。 元々、町のコミュニティバスは、住民の町内移動と最寄り駅までの交通手段という事業コンセプトを中心に据えて実施しています。今回のご意見を伺っていても、これまでの町の方向性を転換するまでには至っていないと思いますので、江南厚生病院までバスを走らせることについては、今しばらく動向を静観するとともに、他市町との広域連携を模索する方向性を堅持したいと思います。
利用者の量的把握が先 ・直行便があればいいと思うが、まず町内優先(町内充実)では。 ・住民全体のニーズをまず優先すべき。 ・乗客数と運行経費等を計算し、それから議論すればいい。 ・総合病院は高度な医療が必要とされるとき。日頃は近くの個人医院を利用していると思うので、利用者は少ないのでは。 ・町民ニーズは多様なので江南厚生病院だけでは済まなくなる。	
コミュニティバス以外の方法を考えては ・コミバスとは別に、医療・福祉の施策として直行便を。 ・「高齢者地域見守り・支え合い」の中で考えれば、バス以外の方法で検討してもいいのでは。	他市町の事例を研究します 大口町は福祉施策の一つとして、初乗り料金を町費で負担する「外出支援サービス事業(タクシー助成)」を実施していますので、対象の方はこちらもご利用ください。 「高齢者の見守り・支え合い」の中で、地域の方々の力をお借りすることができれば、新たな展開が生まれることになると思います。他市町の事例を参考に、コミュニティバス以外の方法も研究してみたいと思います。
駅での接続を便利に ・江南や布袋駅で、名鉄バス(江南厚生病院行き)との接続を拡充する。 ・江南駅での利便性の悪さを、ダイヤやルート等の見直しで対応。	可能な限り検討してみます 一方に間尺を合わせると別の一方が合わなくなったりするので大変難しい作業になりますが、乗り換えの待ち時間が少なくなるよう可能な範囲で検討してみます。